

3. 交付対象事業の背景・概要

A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)
鳥取県の南西部、中国山地のほぼ中央に位置する日南町は、人口約3,800人・高齢化率約55％、町面積340km²のうち9割が森林の中山間地であり、農林業を主力としている。これまでの地方創生の取組により、2020年度には1人の転入超過が生じるとともに、2023年度の移住者数は対前年度9人増の33人となるなど、新たな人の流れを創出しているほか、2022年度の合計特殊出生率は県平均1.44を上回る1.96であり、徐々にではあるが地域に活力が生まれつつある。 本町は一級河川日野川の最上流域に位置する、緑に囲まれた自然豊かな地域で、特別天然記念物であり生きた化石とも呼ばれる「オオサンショウウオ」が町内のほぼ全域で多く生息している。オオサンショウウオは、日本固有の種で世界最大級の両生類であり、豊富な餌を必要とし河川流域内においては生態系の食物連鎖の頂点に立つ生物である。その生息のためには、河川等そのものだけではなく、餌となる生物、その生物の餌となる植物、森林といった豊かな環境が必要なことから、多様な生態系の象徴ともされる生き物である。 しかし、近代以降全国的に人間の生活環境の向上および保全を目的とした多目的ダム、取水堰、砂防堰堤などの設置や、河川改修工事、圃場整備などが行われてきたため、これらの事業により利便性や安全性等、大きな成果がもたらされた一方、結果として多くの河川で自然河岸、瀬や淵が減少し、オオサンショウウオが生息・繁殖し小型個体が成育する環境も減少した。 ただ、近年では、全国的にオオサンショウウオや他の水生生物に対する保護意識の向上が図られてきており、本町においても「第6次日南町総合計画(令和2年4月1日～令和12年3月31日)」や、「日南町『国指定特別天然記念物オオサンショウウオ』個体保護および生息環境保全指針 2023(令和5年4月17日策定)」において、広く町民全体にオオサンショウウオ及び生息環境の保護意識向上を訴え、その保全に努めることとしている。 また、近年、外来種および交雑種のオオサンショウウオが近畿地方を中心に生息域を拡大しつつある中、本町では交雑種が未だ確認されていない。日本固有種の DNAが守られている本町において、オオサンショウウオやその生息地域を含めた環境の保全を町及び町民が主体となり推進していく意義は大きい。オオサンショウウオの生息はその河川の生態系の豊かさを指すものであり、生息環境を含めた保全は人々が受ける自然の恵みにも繋がっている。 一方、緑豊かな本町は、戦後スギ・ヒノキが植林され、山林の6割が人工林となっており、豊富な森林資源を活かし、地域の主要産業として、伐って・利用して・植えて・育てるという循環型林業の実現による雇用創出と地方創生を目指している。現在、人工林の多くが伐期を迎え、主伐・再造林も徐々に増えてきており、町内から年間約10万m³の材を搬出をしている。これは鳥取県全体の年間素材生産量の1/3を占めているが、他の中山間地域同様に都市部への人口流出が止まらず、高齢化率も50%を超え、子々孫々へと受け継がれてきた山林や田畑は荒廃し、町の主要産業である農林業等の一次産業の再編は、猶予のない状況となっている。こういった山林に近接する河川がオオサンショウウオの棲み処にもなっており、間伐の遅れ等による山林の荒廃は河川への土砂流出を招く要因となり、オオサンショウウオの生息・繁殖環境の悪化に繋がっている。 しかし、本町では山林へアクセスするための基幹となる主要な林道が2路線と少なく、効率的な森林整備が進まないことが問題となっており、今後はそれを改善するための道づくりとともに、間伐はもとよりスギ・ヒノキの主伐・再造林により森林資源の循環利用のサイクルを確立させ、併せて再造林地の適切な保育による森林整備及び荒廃した山林の復旧整備を進めることで、荒廃した山林から河川への土砂流入の防止に繋がるため、豊かな森林環境を保全しオオサンショウウオの生息・繁殖に適した環境を永続的に守ることが重要である。 このような中、本町は令和元年度(2019)に政府より「自治体 SDGs 未来都市」として選定され、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取り組みを行っている。町が行っている、文化財保護に対する町民の理解促進のための教育は、開発目標 4「質の高い教育をみんなに」の、そして、オオサンショウウオをはじめとする陸上生態系保護や豊富な森林資源を活かした活動は、開発目標 15「陸の豊かさを守ろう」の達成に向けた取り組みでもある。 このように、豊かな自然環境が残る本町には、日本固有の生きた化石「オオサンショウウオ」が生息・繁殖できる環境を守りながら林業等の地域産業を推進し、オオサンショウウオと人が共生できる環境を未来の世代へ伝えていく義務がある。オオサンショウウオと人が今後も継続して共生していくためには、保全と活用の両活動を続けていくことが重要である。そのため、オオサンショウウオの個体保護や生息環境保全及び森林資源の保護やエコツアーによる利活用の政策を今後も推進していき町の魅力を増加させることで、エコツーリズムによる新たな観光資源の創出と森林整備による棲み処の保全を進め、オオサンショウウオと人が共生する本町を「オオサンショウウオの聖地」として地方創生及び地域経済の拡大に取り組んでいく。

B. 地方創生の実現における構造的な課題
本町には、日野川をはじめオオサンショウウオが生息する多様な河川があり、それぞれの河川で生息状況や自然環境が異なり、保全にあたっては各河川に応じた対応をとる必要があることから、「日南町『国指定特別天然記念物オオサンショウウオ』個体保護および生息環境保全指針」において、町内全ての河川流域で生息状況や環境に応じたゾーニングを行い、調査等の保全活動や公共工事等の開発行為における方針決定等を行っている。 ＜河川流域環境区分＞ ・特A環境(特別保護流域)・・・良好な自然環境を有し生息・産卵・繁殖・成長の一連の生態が確認できる流域 ・A環境(重要保護流域)・・・良好な自然環境を有し大型個体、産卵が確認できる流域、又は生活圏に隣接するも良好な自然河岸を有し一連の生態が確認できる流域 ・B環境(保護流域)・・・生活圏に隣接するも良好な自然河岸を有し大型個体、産卵が確認できる流域、又は人口河岸であっても一連の生態や大型個体、産卵が確認できる流域 ・C環境(注意流域)・・・大型個体の確認のみで産卵が確認できない流域、または良好な環境であっても生息が確認できない流域 ・D環境(観察流域)・・・人口河岸であり生息が確認できない流域 保全活動においては、保全指針で定める特A環境及びA環境の流域を中心に、これまで地域のオオサンショウウオ保護団体が独自にオオサンショウウオの生態調査や年一回の観察会等の草の根活動を実施していた。しかし、独自の取組にも限界があり、更なる保全活動の推進を図るため、令和7年7月に生物多様性保全活動に取り組む団体と生物多様性の保全に関心のある企業をマッチングする制度である「生物多様性保全協定」を結んだ。これには鳥取県、日南町、オオサンショウウオ保護団体、建設コンサルタントの4者が参画し、調査や観察会の他、巣穴や幼生のすみか作り等の整備を行い、オオサンショウウオの生息環境の保全に協力して取り組むこととなった。 また、地域資源としての活用においては、近隣住民等を対象とした観察会の他、町及び民間事業者が共同でインバウンド向けの保全体験エコツアーを検討している。 しかし、これらの活動を推進していくためには、以下の構造的な課題がある。 【課題①】河川流域に隣接する森林の荒廃 ・オオサンショウウオの生息・繁殖にあたっては、豊かな自然環境が必要である。特に繁殖においては、産卵巣穴となる河川内の石の隙間や川岸にできた横穴が必要であるが、森林等から流出した土砂により横穴が埋没してしまい、産卵巣穴が無くなることで繁殖が困難となってしまう。特に、河川流域に隣接する森林においては間伐等の森林整備が遅れ、下層植生が衰退することで林内の表土の流出や山林斜面の崩壊の発生に繋がり、この土砂が河川へ流出することが繁殖阻害の一因となっている。また、下層植生の衰退は餌となる生物の減少に繋がるため、森林の荒廃はオオサンショウウオの生息・繁殖において深刻な問題となっていることから、早急な森林整備が必要である。 ・特A環境に指定されている河川が集中する日野川源流域は、広島県及び島根県に隣接する県境に位置し、人里離れた奥地であり豊かな自然環境を有するため、町内でもオオサンショウウオの生息地として最も理想的な流域である。しかし、これまで基幹となる林道が無かったことから間伐等の森林整備が遅れており、この理想的な流域の保全が喫緊の課題となっている。 【課題②】緊急捕獲個体等の保護施設の不備 ・オオサンショウウオは世界に誇ることのできる日本固有の両生類である。そのため、国内だけでなく世界中の研究者にとっても研究価値は非常に高い。他県においては外来種及び交雑種の個体が生息域を拡大しつつある中、日本固有種のDNAが守られている本町のオオサンショウウオを守る必要がある。 ・現時点で、外来種及び交雑種の発見事例は無いが、近隣の広島県や岡山県では生息が確認されていることから、本町でも発見されることを想定しておく必要がある。もし発見された場合、遺伝子攪乱等の生態系への影響を防ぐために隔離飼育が必要であるが、現時点で隔離飼育ができる施設が無い。 ・また、河川等における工事の際にオオサンショウウオが発見された場合は、一時避難や卵や幼生の場合に一時保護を行い、もともと生息していた箇所へ戻すことが望ましいが、上述と同様に保護施設が無いことから、文化庁への許可申請の上、生息河川の上流域へ移動・放流を行っている。 【課題③】観察会及びエコツアー受入態勢の不足 ・オオサンショウウオは日本固有種であることから、世界的に価値は高く、特にヨーロッパでは近似種含め生息していないためインバウンドからのツアー人気が高く、インバウンド向けの高単価商品としても力を入れていきたいところ。 ・そのため、観察会による地元住民等の保護に対する機運醸成や、エコツアー参加者数の増加による地域経済の活性化を図りたいところであるが、ツアー開催におけるルールや販売体制が整っていない他、専門知識を有するエコツアーガイド(インタープリター)が少なく、受入可能な人数が限られているのが現状である。エコツアーを主催する組織も未熟なので体制強化する必要がある。 ・エコツアーを開催する場所は、人里から離れているため参加者やスタッフが利用できるトイレやガイダンス、休憩場所がなく、ハード面としても観光客の受入態勢が整っていない。 ・現在実施しているオオサンショウウオの観察会においては、これまでに調査研究用に整備した人工巣穴に生息している個体を観察しているが、拠点となる観察小屋がない。オオサンショウウオは直射日光を嫌い、ストレスを感じると人工巣穴を使用しなくなるため、観察会ごとに費用と労力をかけて簡易的な小屋を作って対応しており、これも参加者数を増やすことができない要因となっている。 ・エコツアーの参加者が宿泊する場所や食事をとる場所がほとんどない。 ・本町における新たな観光資源の創出のため、持続可能なエコツーリズムの推進体制を整えるためには、これらの受入態勢の整備が重要な課題である。 【課題④】保全思想の普及啓発及び国内外へのPRの不足 ・国立科学博物館で令和7年3月から上映されている「日本の川－固有種との出会いの旅－」においては、本町のオオサンショウウオが大きく取り上げられており、この映像が国立科学博物館で上映されることは、国内の生息地の中でも顕著な生息地であることを示している。 ・しかし、地域住民の多くは近頃の川にいる身近な生き物という認識であり、その希少性や保全の重要性が浸透していないのが現状である。保全のためには地域住民の理解・参画が不可欠であるため、保全思想の普及啓発が課題である。 ・また、これまで町公式キャラクター「オッサンショウウオ」を活用した町内外へのプロモーションを行ってきたが、エコツーリズムを推進していくにあたり、町内外はもとより国内外へ訴求力のあるプロモーションが必要である。

C. 交付対象事業の概要 (交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのが分かるように記載すること。)
【ソフト事業】 ○オオサンショウウオ聖地化実施計画の策定　＜解決に寄与する課題:③④＞ ・オオサンショウウオの保全をテーマに、エコツーリズムにおいて観光資源としての活用を推進するため、実施事業の見取図となるオオサンショウウオ聖地化実施計画を策定する。 ○エコツアーガイド養成講座の実施　＜解決に寄与する課題:③④＞ ・エコツーリズム推進(エコツアー等の実施)に必要な人材育成を目的としたエコツアーのガイド(インタープリター)の養成講座を実施する。 ○観察会・モニタリングツアーの実施　＜解決に寄与する課題:③＞ ・持続可能な保全活動を目指し、新たなツアープログラム造成を行うための観察会やモニタリングツアーを実施する。 ○ガイドマップの制作　＜解決に寄与する課題:③＞ ・観察会やエコツアーで利用する生息地の生態マップを作成する

観察会やエコツアーで利用する生息地の生態・プランを作成する。

○調査事業の実施　＜解決に寄与する課題:③④＞

- ・専門家と地元保護団体、行政が協力して生息環境保護の指標となる事項(人工巣穴利用度調査、個体調査、DNA調査等)を調査する。本調査の結果はエコツアーに利用するPR・ガイダンス・教育用動画やガイドマップの制作に利用する。

○PR・ガイダンス・教育用映像の作成　＜解決に寄与する課題:③④＞

- ・エコツーリズムを展開していくにあたっては、オオサンショウウオのライフサイクル、本町の環境の素晴らしさを広く伝える必要があるため、映像を作成し、PRとガイダンスに利用する。

【拠点整備事業】

○オオサンショウウオ一時保護設備(池)の整備　＜解決に寄与する課題:②＞

- ・外来種及び交雑種の個体が発見された場合において、遺伝子攪乱等の生態系への影響を防ぐための隔離飼育を行う設備を整備する。
- ・また、工事等で緊急捕獲されるオオサンショウウオ及び卵や幼生の一時保護に必要な設備(池など)を整備する。これにより、工事完了後に元の生息場所に放流できるようになり、生息環境をかく乱しない

より配慮した保護体制の構築につながるほか、増水等で河川内でエコツアー等が実施できない場合でも観察ができるようになる。

○多目的小屋付きバイオトイレの整備　＜解決に寄与する課題:③＞

- ・当地にはトイレがないため、エコツアーや観察会、保護活動を円滑に実施するために、環境に配慮したバイオトイレを整備する。また、トイレには着替え、レクチャー、休憩等に利用できる多目的小屋を併設したものとし、観光客等の利便性向上を図る。

○観察小屋の整備　＜解決に寄与する課題:③＞

- ・観察会やエコツアーで必要な観察小屋を整備する。直射日光が入らないことでオオサンショウウオにストレスがたまらず、人工巣穴を継続的に利用してくれるようになり、エコツアー等が円滑に実施できるようになる。

【インフラ事業】

○森林整備事業(造林、林道)　＜解決に寄与する課題:①②＞

- ・特A環境及びA環境の保護流域における間伐等の森林整備が遅れた森林を重点的に、間伐はもとよりスギ・ヒノキの主伐・再造林により森林資源の循環利用のサイクルを確立させ、併せて再造林地の適切な保育による森林整備を進めることで豊かな森林環境を保全し、結果として荒廃した森林から河川への土砂流出を防ぐことによりオオサンショウウオの生息・繁殖に適した環境を永続的に守ることができる。
- ・特に、特A環境に指定されている河川が集中する日野川源流域においては、これまで基幹となる林道が無かったことから間伐等の森林整備が遅れた森林が多く存在し森林の荒廃が進んでいるが、現在鳥取県が開設中の林道窓山線の整備を進め、早期に共用することでこれらの森林の整備が進み、この理想的な流域の保全が図られる。
- ・また、拠点整備事業で予定している観察小屋等は、林道窓山線の沿線に整備する予定であることから、調査やエコツアー等の利用におけるアクセス改善が図られることで、利用者の利便性向上が期待できる。

○治山事業　＜解決に寄与する課題:①＞

- ・特A環境に隣接する山林において、間伐等の適切な森林整備の遅れにより荒廃した山林斜面の復旧整備を行うことで豊かな森林環境を保全し、荒廃した山林から河川への土砂流入の防止に繋がることで、オオサンショウウオの生息・繁殖に適した環境の保全に貢献する。

D. 事業分野(大項目)のいずれかを選択した理由（地域未来戦略における3分類(戦略産業クラスター関連事業／地域産業クラスター関連事業／地場産業支援関連事業)との関連性)

本町における総合戦略にも掲げているとおり、本町は豊富な森林資源及びオオサンショウウオをはじめ豊かな自然が強みであり、これらを生かした観光戦略や林業振興により、地域経済の維持及び拡大を目指す取組として、本事業を実施するもの。

また、森林整備及び荒廃した山林斜面の復旧整備を行うことにより、森林の持つ防災機能の維持・強化に繋がるため、地域住民の暮らしと安全を守ることに繋がる。